

な気持ちで協力し、進んで仕事に取り
組む姿に表れていた。

⑤ 交歓の集い

本校の様子をVTRで紹介したあと、
体育館でフォークダンスをした。東中
学校からの希望で、キャンドルフア
イヤーのとき本校生が紹介した「ジ
ンギスカン体操」をくり返し練習し、楽
しい汗を流した。

⑥ 別れの会

郡山少年自然の家に別れを告げ、活
動班ごとにバスに分乗し志田浜に向か
い、ここで別れの会を行った。終わっ
て活動班を解除し、学校ごとにバスに
乗って志田浜を離れた。別れるときは
そこそこお互いの別れを惜しむ光景
が見られた。

こうして、今回の主活動である合同
野外活動は、生徒たちの心に、さまざ



ジンギスカン体操

(三) 事後交流の取り組み

① 十月八日本校生徒(合同野外活動
に参加した二十六名と転入生一名)が、
東中学校のいも煮会に招待された。秋
の空のもと、合同野外活動と同じ班に
別れ、それぞれの趣向をこらした料理
を囲み、再会のよろこびを味わった。
② 十月十九日本校の学習発表会に、
今度は東中学校生徒を招待し、本校生
のリズム劇、器楽演奏、作品展示など
を鑑賞してもらった。
その後、両校の感想文や絵を相互に
交換するなど、機会を見つけて交流を
続けている。

五、交流活動の成果

(一) 東中学校の活動前のアンケートで
は、「障害児について知らない」と
いう生徒が多く、ほとんど障害児に
ついて、関心がなかったと思える。
今回の活動を通して、感じ易い中学
生の心で、自分の偏見を悔い涙して
いるところが印象的であった。この
心が、以後の両校の交流活動のエネ
ルギーになっているのであろう。
以下東中学生の感想文を記す。

○東中学校生徒の感想文より

「私はこの交流教室に参加して心の
中の何かが変わったような気がします。
はじめ対面して妙に気持ち悪い、など
とけいべつのまなざしで見つめていま
した。けれども(一緒に)活動・生活

していくうちにこんな気持ちで見つめ
ている自分がなんて情けないんだらう。
もつともつと優しくしてあげないんだ
らう、そう思うようになってきました」
(中学二年 A男)

「……明るく伸び伸び何事にも取り
組んでいるのです。私は、こんな姿を
見ていると涙が流れてきてしまいました
た。その涙は、かわいそうだという同
情ではなく、自分が情なくなり流した
涙なのです」
(中学二年 B子)

「この子どもたちは普通に生まれて
くれば、私たちと同じなんだ、と思い
つめていた。このにこにこした元気の
いい笑顔に、ますます悲しみが深まる。
悲しみが深まるたびに残念に思い心の
何かがゆれ動く、そう思うとき、みん
な同じ友だちと……」(中学二年 C男)

「どんな障害をもっている人でも温
かい目で見守ってあげたい。思い出し
残る交流だった」(中学二年 A男)
(二) 本校生には、非常に強烈な体験で
あり、同年代の多くの友だちを得た
喜びは大きかった。そしてそのこと
が、新しい世界の発見となり、ここ
に、社会的自立へ向けて力強く一歩
を踏み出したことを信じる。今回の
反省会のことばのしばしを略記す
るが、本校生は、ことばや文章の表
現が十分でないで、言外にある生
徒の心の喜びを感じとっていただけ
れば幸いである。

「キャンドルファイヤーがもつと(も
つとも)たのしかったです。いも煮会

を待っています」(中学三年 A男)
「おともだちになつたのは、のぶゆ
き君、さとうみつこさん、いも煮会で
みんなとあそびたいです」
(中学二年 B男)

「わたしは四班です。じぶんの班で、
ほしくん、じんくん、こんどうさん、
たかはしさんをおぼえています」
(中学二年 C子)
「よるは、ねむれませんでした」
(中学一年 D子)

六、今後の課題

(一) 交流教育の意義を強く感じるにつ
けて、交流教育を一時的なものにし
ないため、学校の教育課程に位置づ
ける必要がある。

(二) 障害児に対する理解は深まってい
るものの、公共施設など障害児向け
でないものが多い。共に生きること
のためにも障害児の利用を考慮に入
れた施設が望まれる。
(三) 交流教育に、父兄の協力、参加を
更に広く呼びかける必要がある。

七、おわりに

本校生徒にとっては多くの友だちが
できたことそれ自体が喜びであり、そ
れが交流の成果である。
今回の成果を踏まえて、この交流を
小、中、高校更に地域社会に広げたい
と願っている。